

黒田・豊臣鎮圧軍による豊前一揆鎮圧の本陣発見！？「三保山城跡」

担当：歴史博物館 浦井（電話 0979-23-8615）

中津市教育委員会が行った中近世城館確認調査事業により、天正 15 年（1587）頃に築かれた可能性のある織豊系城郭（三保山城跡）の陣跡を発見しました。特徴から黒田・豊臣軍による豊前一揆鎮圧の本陣と考えられます。

*中近世城館確認調査とは平成 25 年度から令和 3 年度までの 9 年間かけて実施した、市内城館の詳細分布調査のことです。この調査によりこれまで 62 箇所とされていた城館が、推定地も含め 145 箇所あることが判明しました。

三保山城跡について

確認した遺構

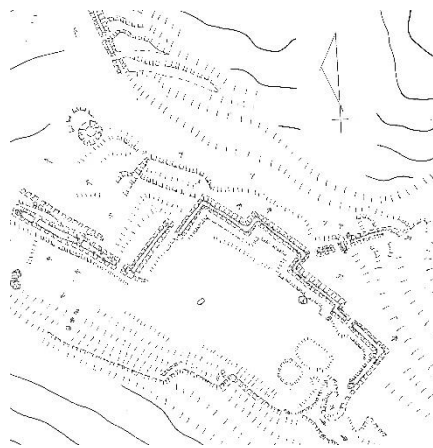
曲輪・土塁・石垣

場所

中津市大字伊藤田、三光上秣、三光下秣の境、三保山山中

特徴

- ① 主郭（東西 80m、南北 60m）の土塁は北辺を複数回屈曲させ、東辺に石垣、西辺に喰い違い虎口を設ける。
- ② 土塁は部分的に石垣を施し、主郭から 3 方向に土塁を伸ばし、尾根筋約 650m と広範囲にわたる。



三保山城跡縄張り図

織豊系城郭・陣とは

- ① 織田信長や豊臣秀吉、またその配下の武将により築かれた城郭のこと。（例：安土城、大坂城など）
- ② 高石垣、礎石建物、瓦の 3 つの要素があるとされる。
- ③ 土塁、堀、虎口（天守など重要箇所への入口）を屈曲させるなど技巧的な構造をとる。
- ④ 陣とはある城を攻めるために造られた仮設の攻撃施設。陣所ともいう。
- ⑤ 陣は攻撃対象方向へ土塁・堀を築くなど閉鎖性をもつ。一方、反対側は何も築かないなど開放性がある（宮武正登 2022 「新発見の豊臣系陣跡の考察」『中津市の中近世城館-各説・総括編』参照）。

三保山城跡から読み取れること

(宮武正登 2022「新発見の豊臣系陣跡の考察」『中津市の中近世城館-各説・総括編』を参照し、担当課作成)

【複数回屈曲させる土塁・喰い違い虎口】

⇒織豊系城郭の特徴

⇒この特徴から、造られた時期は豊臣秀吉による九州平定以降といえる。

【土塁の位置】

⇒攻撃対象は北-北西を想定

⇒北-北西には黒田氏に対抗する勢力（賀来・福島・犬丸氏など）が存在。

⇒近くにある上伊藤田城・北平城なども北西を攻撃対象にしている。

⇒ゆえに、三保山城は、豊前一揆鎮圧のために築かれたもの。

⇒抵抗勢力との位置関係から鎮圧軍の本営の可能性もある。

今回の発見の意義

- ① これまで文字史料でしか確認されていなかった「豊前一揆」における抵抗・鎮圧の様相が、三保山城跡の発見により具体的となった。
- ② 中津の中近世以降期の地域史研究のみならず、九州平定時に、反発する在地領主と豊臣方がどのように対峙したのか、城郭を通してその実態に迫る発見である。



豊前一揆攻防戦イメージ図

報道向け現地説明会について

日時 令和4年9月1日(木) 10:00~12:00 (集合場所 中津市三光支所 9:45)

*長靴・虫よけ等ご準備ください。前日までに博物館までご予約ください。

関連展示

中津市歴史博物館企画展「土豪の城-豊前武士と戦国動乱-」

会期：令和4年9月23日(金・祝)～11月6日(日)

内容：中津市の中近世城館調査成果や関連資料を展示する。その中で三保山城跡についても紹介する予定。